

# みんなで決めよう！ 考えよう！

「合併について説明会は開かないんですか？」

近藤町長は合併協議会がまとまり次第、住民説明会を開くといっています。

「それじゃあ、決まってからじゃないですか。」

「合併は町長と議員だけで決めるモノ？」

町長さん、こう言っています。「現在住んでいる住民だけの問題ではない。遠い将来、まだ生まれていない子供たちの将来にも影響する問題でございませうから、これは現在の首長と、そして議員さんが政治的信条をかけて苦渋の決断の中で決定すべき課題だと考えておりますので、住民投票については一切考えておりません」  
(平成十九年第一回一宮町議会定例会における答弁要旨)

私たちには、合併について考える能力もないということでしょうか。いいえ！そんなはずありません。

私たち住民の意見を反映させる方法があります。その一つが、住民投票なのです。

「住民投票って何ですか？」

住民生活にかかわる重要な課題については、その賛否について、住民による投票が行われることがあります。ただし、住民投票を実施するには、住民投票に関する条例を制定する必要があります。

署名にご協力を  
お願いします。

住民説明会を行い、そして住民投票を実施することを近藤町長に要望します。

国も、合併に関しては、住民投票をするのは「適当である」と考えています。(裏面参照)

未来の上総一宮をつくる会

代表 馬淵 昌也 0475(42)4211

副代表 藤兼 一由 0475(42)6068

※署名にご協力いただける方、会の主旨にご賛同いただける方は是非ご一報ください！

## 住民説明会と住民投票の実施を要望します

## 要望書への署名にご協力をお願いいたします。

私たちは、合併に関する説明会と住民投票の実施について、以下のように近藤町長へ要望するための署名をお願いしています。よろしくご協力下さいますようお願い申し上げます。

### 「合併に関する是非を問う住民投票の実施」に関する要望

私たちの愛する一宮町は、海・山・川・水田と、農地や自然環境にも恵まれた場所です。鉄道や道路網にも恵まれ都心からも通勤可能な便利な土地柄に、かつては数々の文化人や政・財界の著名人等の別荘地として名を馳せた輝かしい歴史ももっています。都心からの距離や自然環境のみならず、一宮のたどってきた歴史がそれを支えてきたのです。

今、合併の話し合いが急速に進められています。しかし、私たちにはその話し合いが現在どこまで、そして、どんな形で進められているのか全く分からない状況です。住民への説明など無駄・無用とお考えでしょうか。合併すれば無くなってしまいう一宮町の未来について、どうして私たち住民に詳しく説明し、問いかけてくれないのですか。

これから一宮がどうなっていくのか、子供達・孫達の世代には活気ある一宮を取り戻せるのか。次の世代に輝きのある一宮を託すことは出来るのか。合併に重なって数々の不安がよぎります。百年先の未来の一宮のために、責任をもった手続きを踏んで、私たちにも、そして未来の住民達にも責任を果たすような手順をもって決定してください。

そこで、私たち一宮町の住民は、以下のように「住民投票条例」を制定し、一宮町の住民に「合併に関しての充分なる説明を行い」、そして「合併の是非を問う住民投票」を実施することを要望いたします。

#### 〔 要望内容 〕

1. 一宮町が、長生郡市への合併に賛同することの是非を住民投票により決定すること。
2. そのために住民投票条例の制定をすること
3. 合併の是非に関する住民投票にあたっては、事前に合併協議やその進行状況についての充分な情報公開と、その内容の長所短所について明らかにする丁寧な住民説明会を実施すること。
4. 合併協議に関する決定を一宮町議会に諮る以前に住民投票を実施すること。

## 「市町村合併については、住民自身の意思を問う住民投票制度の導入を図ることが適当」

二〇〇〇年 政府地方制度調査会第二六次答申

政府の地方制度調査会は、住民投票制度の制度が議論の対象となった二〇〇〇年の第二六次答申において、住民投票を代表民主制の補完的制度として引続き検討する余地があるとしながら、「ただ、市町村合併については、①まさに地方公共団体の存立そのものに関わる重要な問題であること、②地域に限定された課題であることから、その地域に住む住民自身の意思を問う住民投票制度の導入を図ることが適当である」とはっきり述べています。

これによれば、合併の是非を含めた住民投票は、まさに市町村合併問題に最も適切な地方制度上の法的手段であると考えられます。

## 「シンポジウム 合併と自立の検証」 盛況のうち開催

さる七月十六日に開催された「シンポジウム 合併と自立の検証」には、三五〇人以上の方々にご参加くださいました。ありがとうございました。

総務省合併推進課・下仲宏卓氏、都留文科大・大和田一紘氏、京都大・岡田知弘氏、そして矢祭町前町長・根本良一氏の四人の講師による熱弁のため、予定の時間を一時間ほど超過してしまいましたが、最後の質疑応答の時間まで、多くの方が真剣に耳を傾けていらつしやいました。

準備段階では、地域の方々のお志のみに頼っており、資金的にかなり苦しい状況でしたが、シンポジウム当日には、ご来場の方々から多くのカンパをいただいたことができました。本当にありがとうございました。

